

令和 7 年度 第 5 回高士区地域協議会 次第

日時：令和 7 年 8 月 21 日（木）午後 6 時 30 分～

会場：高士地区公民館 大会議室

1 開会

2 あいさつ

3 議題

自主的な審議

自主的審議事項について

4 その他

(1) 次回開催日程について

・日時：令和 7 年 月 日（木）午後 6 時 30 分～

・会場：津有地区公民館 大会議室

(2) その他

5 閉会

〔資料・配布物〕

○事前 ・次第

・資料 1 高士区地域協議会が考える地域課題（仮説）と地域への確認事項

・資料 2 高士区地域協議会「高士区へお聴きしたいこと」骨子（案）

～ 地域協議会における会議の心得 5か条 ～

その 1 自分以外の人の考えも聞きましょう（自分ばかり話さない）

その 2 発言は簡潔にしましょう（だらだら話さない）

その 3 建設的な話し合いをしましょう（頭から否定しない）

その 4 話し合いやすい雰囲気を大切にしましょう（相手を責めない）

その 5 個人の意見は平等に扱いましょう（一人の強い意見に偏らない）

	地域協議会が考える仮説の課題	仮説が正しいか確認すべきこと	町内会へ確認する事項	他の団体に確認する事項	
3 人口減少 高士区の人口減少は顕著であり、危機感がある。地域の皆さんに現状を知ってもらい、地域を維持していくことの大切さについて地域全体で意識を高めていきたい。	・ 高士地区の人口減少が顕著であることを、地域全体で受け止め、今後の高士地区について考えるべき	・ 高士小の児童数の減少について、地域の人はどう感じているのか ・ 人口減少に関する認識	・ 高士小の児童数の減少に関する考え、感想 ・ 人口減少に関する認識		青少協
	・ 20～30代の女性が地域から出て戻らないことが大きな要因	・ 女性が住みやすくなる環境づくり ・ 子供はどのような地域であれば帰ってきたいと思えるか（地元に戻りたいと思える魅力とは何か） ・ 保護者は子供の定住についてどう考えるか	・ 若者が住みやすくなる環境づくりの取組 ※高士では男女誤差の範囲と考えられる	・ 若い世代はどのような地域であれば帰ってきたいと思えるか（地元に戻りたいと思える魅力とは何か） ・ 保護者は子供の定住についてどう考えるか	
	・ 市内（近隣地域）に若い世代が望む職種が少ない	・ U・I・Jターンの状況 ・ 若い世代が望む職種	・ U・I・Jターンの状況	・ 若い世代が望む職種	市
1 コミュニティ 子どもから高齢者まで地域全体のコミュニティが変化してきている。「近所づきあい」が減ってきた中で、それに代わる交流の必要性等を考えたい。	・ 住民同士の情報共有の場が少ない	・ 住民同士がコミュニケーションをとる機会を地域でどの程度創出、工夫しているか	・ 住民同士がコミュニケーションをとる機会 ・ 町内会行事 ・ 地域の情報を得るコミュニケーションツール ・ 縮小、廃止した行事 ・ 復活・拡充・新規設立した行事 ・ にぎわいを生み出す工夫 ・ 町内会館の活用状況	・ 地域の情報を得るコミュニケーションツール	公民館
	・ 高齢者が日常でコミュニケーションをとれる場が大切	・ 老人会のある町内はどのくらいか、どのような活動があるか ・ 老人会以外に高齢者がコミュニケーションをとる機会はあるか ・ 実際にコミュニケーションはとれているか	・ 老人会のある町内数、活動内容（行事） 老人会以外の高齢者がコミュニケーションをとる機会 ・ 老人会の会員数、参加率 ・ 老人会以外の団体（壮年会など）		
2 子育て（保護者） 時代とともに生活様式が多様化する中で、核家族化、仕事と子育ての両立や学校環境の変化に伴う保護者の負担など、実態を地域で共有し、地域で子育てについて考えたい。	・ 中学校区が広く送迎が必要。中学校は17時迄しか滞在できないが、迎えに行けない	・ 保育園や学校の登下校の送迎、制服購入などの保護者の負担感	・ 地域で行っている子育て支援	・ 保育園や学校の登下校の送迎、制服購入などの保護者の負担感	青少協
	・ 保育園や小学校の統合も見据えた場合、送迎や制服などにかかる負担の発生が懸念される	・ 仕事と子育ての両立の工夫 ・ 進学や統合による新たな学校生活について不安なこと ・ 地域でサポートできる手段はあるか		・ 仕事と子育ての両立の工夫 ・ 進学や統合による新たな学校生活について不安なこと ・ 地域で行ってほしい子育て支援	
	・ サポートしてくれる同居家族がいない子育て世代は、子育て相談（コミュニケーション）の場が必要	・ 保護者が周囲とコミュニケーションをとれる機会 ・ 地域の人が子どもと接する機会	・ 地域の人が子どもと接する機会	・ 保護者が周囲とコミュニケーションをとれる機会	
その他		・ どのような公的支援があるか		・ どのような公的支援があるか	市
			・ 近所づきあいや子育ての状況がどのように変化してきたか、意見、感想	・ 空き家活用 ・ 男女の交流機会の創出 ・ 人口推移	市

高士区地域協議会「高士区へお聴きしたいこと」骨子（案）

1 目的

高士区地域協議会では、地域について学び、多岐にわたる分野について考えることで、新たな発見や疑問から、地域課題を整理してきた。地域協議会が地域課題と捉えた事項と、地域の皆さんの考える地域の課題に違いが生じないよう、アンケートで検証することで、地域の想いを汲み取ったテーマを設定し、自主的な審議を行う。

2 集計結果利活用方法

- ・地域協議会で考える仮説の地域課題と、地域の皆さんが考える地域課題をすり合わせる。
- ・審議を進める中での参考とする。
- ・高士区内で課題を共有するため、「地域協議会だより」で発信する。

3 回答期限

令和 7 年 10 月上旬（2 週間程度）

4 質問票の配布方法

広報 9 月 25 日発行号の配布時に町内会長宛連絡便に同封

5 回収方法

紙ベース（返信用封筒同封）または Web（二次元コードから Google アンケートを用いて）回答

6 調査対象（依頼先）

町内会長（14 町内会）

7 回答基準日

令和 7 年 9 月 1 日時点

8 集計方法

Google アンケートを用いて集計

9 集計結果の周知方法

高士区地域協議会だよりで全戸配布

10 各項目の目的と、設問の設定理由

(1) 人口減少

【目的】 高土区の人口減少は顕著であり、危機感がある。地域の皆さんに現状を知ってもらい、地域を維持していくことの大切さについて地域全体で意識を高めていきたい。

【参考】 ・高土区の人口増減率（1970年～2020年） …45%（△人）
 ・高土区の高齢化率 …
 ・高土区の少子化率 …
 ・若い世代の流出状況 …

設問		設定理由
問1	<u>高土区の人口減少に関する危機感</u> ・とても危機感を感じている ・まあまあ危機感を感じている ・全く危機感を感じていない	人口減少に関する認識
問1-2	問1の理由 ()	
問2	20代前半の若い世代の <u>高土区からの人口</u> 流出（市内転居含む）理由 ・通学・通勤に不便 ・日常生活（買い物、遊ぶ場所）に不便 ・地域に居たいと思う魅力がない ・その他（ ）	若い世代の定住に関する認識を確認する
問3	高土区で育ち、移転した方（市内転居含む）で、この1年間で <u>町内に</u> 戻って暮らしている人数 ・1～3人 ・4人以上 ・いない ・わからない	U・I・Jターンの（把握）状況を確認する
問4	高土区で育ち、他地域へ移転した若い世代（主に20代）が「戻りたい」と思える「魅力的な地域づくり」のために、 <u>高土区で実施または強化すべき取組</u> ・住環境の提供、支援 ・同級会・同窓会 ・婚活イベント ・趣味、習い事などができる教室	若い世代が住みやすくなる環境づくりの取組

	・ 幼少期から高士区に愛着を持つための事業やイベント ・ Web 帰省 ・ ・ 高士ルミネ ・ 特になし ・ 戻る必要はない (→ 問 4-2 へ) ・ その他 ()	
問 4-2	問 4 で「戻る必要は無い」とした理由 ()	
問 5	高士区の人口減少について思う事 (自由記載)	人口減少に関する認識

(2) コミュニティ

【目的】 子どもから高齢者まで地域全体のコミュニティが変化してきている。「近所づきあい」が減ってきた中で、それに代わる交流の必要性等を考えたい。

①町内会

設問		設定理由
問 1	町内会の事業 ・ ・ ・ その他 ()	町内会で行っている事業の現状を確認する
問 2	縮小・廃止した事業 ・ ・ ・ その他 () ・ なし	
問 3	復活・拡充・新規設立した (い) 事業 ・ ・ ・ その他 () ・ なし	
問 4	町内会行事でにぎわいを生み出すために工夫していること ・ ()	住民同士がコミュニケーションをとる機会を町内でどの程度創出、工夫しているか

問 5	町内会館の利活用 ・町内会の会議 ・町内会の行事 ・老人会 ・こども会 ・サロン ・習い事 ・ ・ ・会館が無い ・その他（ ）	
問 6	<u>町内の住民同士</u>がコミュニケーションをとる機会 ・町内行事 ・日常の挨拶・声掛け ・お茶飲み ・農作業 ・公民館事業 ・ ・ ・ ・サロン ・その他（ ）	
問 7	<u>町内の住民同士</u>がコミュニケーションをとる機会として、あったらよいと思うもの ・ ・ ・ ・その他（ ）	住民同士がコミュニケーションをとる機会として、どのようなことが望まれているか
問 8	<u>高土区</u>の情報を得るための手段 ・回覧版 ・電話 ・インターネット（SNS 含む） ・たかしだより ・ ・ ・その他（ ）	地域の情報を知る有効なコミュニケーションツールを確認する

問 9	<u>高士区</u> の情報を得るためのコミュニケーションツールとして便利（だった）と思われるもの ・有線放送 ・電話 ・高士区限定のインターネット掲示板（アプリ） ・ ・ ・その他（ ）	
-----	---	--

②老人会

設問		設定理由
問 1	老人会（それに準ずる会） ・ある（町内単独） →問 1-2 以降 ・ある（他町内と合同） ・ない →③へ	町内会以外の地域のコミュニティ団体の有無
問 1-2	会員数	
問 2	活動内容 ・ ・ ・ ・ ・会はあるが活動は実質ない ・その他（ ）	町内会以外の地域のコミュニティ団体の活動状況
問 2-2	参加状況 ・とても ・まあまあ ・全く	

③こども会

設問		設定理由
問 1	子ども会（それに準ずる会） ・ある（町内単独） →問 1-2 以降 ・ある（他町内と合同） ・ない →④へ	町内会以外の地域のコミュニティ団体の有無

問 1-2	会員（こども）数	
問 2	活動内容 ・ 入学祝い ・ ハロウィン ・ クリスマス ・ ラジオ体操 ・ ・ 会はあるが活動は実質ない ・ その他（ ）	町内会以外の地域のコミュニティ団体の活動状況
問 2-2	参加状況 ・ とても ・ まあまあ ・ 全く	

④その他の町内会の団体

設問		設定理由
問 1	町内にある、老人会、子ども会以外のコミュニティ団体（複数の町内会での合同含む。自主防災組織や農家組合等は除く。） ・ 青年会 ・ 婦人会 ・ その他（ ）	住民同士がコミュニケーションをとる機会を町内でどの程度創出、工夫しているか

(3) 子育て

【目的】 時代とともに生活様式が多様化する中で、核家族化、仕事と子育ての両立や学校環境の変化に伴う保護者の負担など、実態を地域で共有し、地域で子育てについて考えたい。

設問		設定理由
問 1	町内の人々が子どもと接する機会 ・ 世代交流型の行事 ・ ・ ・ ・ ・ 設けていない ・ その他（ ）	町内の人と子どもが接する機会

問 2	町内・近所で行っている子育て支援 ・ 学校への送迎 ・ 登下校の見守り（立哨） ・ 制服や体操着の譲り合い ・ ・ ・ その他（ ）	町内で行っている支援の確認
-----	--	---------------

(4) その他

設問		設定理由
問 1	地域の年齢構成、近所づきあいや子育て、保護者の働き方等、目まぐるしく変化していることについて、率直な意見、感想	

○協議会だよりなぞなぞ

- ・ 二次元コードで参加（認知度の統計をとるため）
- ・ 正解は次号に記載

設問		設定理由
問 1	高士区の人口増減率 (1970 年～2020 年) ・ 15% ・ 30% ・ 45%	高士区の人口減少の状況の認識を確認する
問 2	高士区の高齢化率 ・ ・ ・	
問 3	高士区の少子化率 ・ ・ ・	